

2026年  
4月18日

# 有松ぶら散歩&久田落語会

旧東海道散策：絞会館～山車会館～岡家住宅～久田



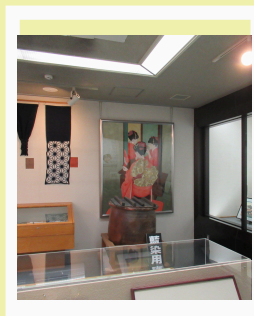
本日は、他区の友人のリクエストで有松ぶら散歩と久田落語会を楽しみました。散策中、印象的だったのは、伝統的な景観の中に外国人観光客や若い世代の姿が数多く見られたことです。

古いものをただ保存するだけでなく、新しい感性が混ざり合うことで、有松は今、新たな活気を帯び始めているように感じられました。

## 1. 技の極致に触れる「有松・鳴海絞会館」

まず訪れた絞会館では、有松絞りの歴史を彩る数々の名品に圧倒されました。

- ・ 実演の衝撃: 熟練の職人が迷いのない手つきで布を括る姿は、まさに芸術そのもの。
- ・ 体験の喜び: 実際に絞りを体験してみると、その力加減や工程の複雑さを肌で感じ、一枚の布に込められた気の遠くなるような手間に改めてリスペクト。



## 2. 伝統の威容を誇る「有松山車会館」

続いて足を運んだ山車会館では、有松天満社の秋季大祭で曳き出される山車の迫力に息を呑みました。

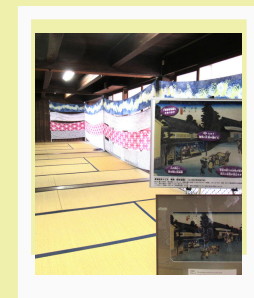
- ・ 絢爛豪華な装飾: 間近で見る立派な彫刻や刺繍の細工は、かつての町の富と職人魂の結晶です。
- ・ 勇壮な歴史: 山車が狭い旧街道を練り歩く様を想像するだけで、この地に根付く祭礼文化の熱量が伝わってくるようでした。



## 3. 時の積み重ねを知る「岡家住宅」

名古屋市指定有形文化財でもある岡家住宅では、有松という町の成り立ちを深く掘り下げることができました。

- ・ 商いの隆盛: 江戸時代、東海道を行き交う旅人たちの土産物として愛された絞り染め。その商いがもたらした繁栄の跡が、土蔵や広い間口に色濃く残っていました。
- ・ 変遷の物語: 明治から現代へと時代が移り変わる中で、人々の暮らしや町並みがどのように守られ、形を変えてきたのか。その変遷を辿る時間は、観光を超えた、知的な探求心を満たしてくれる貴重なひとときとなりました。



## ひさだ落語会



- ・ 伝統工芸の空間で楽しむ: 絞り製品に囲まれた店舗内という特別な空間で落語を聞くことで、五感で日本の伝統を感じられるのが魅力です。



- ・ 名古屋を中心に活躍するプロの落語家、登龍亭幸福師匠が指導する門下生の皆さんの古典、創作、ご当地アレンジ落語の熱演を楽しみました。

